

妊婦健診未受診妊産婦による周産期の言動をめぐる研究

妊婦健診未受診妊産婦の理解の仕方にそくして

関西福祉大学 井上寿美 (007221)

笹倉千佳弘 (就実短期大学・007988)

周産期・妊婦健診未受診妊産婦・了解困難

1. 研究目的

妊婦健診未受診妊産婦（以下、未受診妊産婦とする）は、子どもを虐待する可能性の高い子育てハイリスク群であると指摘されている。子どもを産む前から子ども虐待の可能性がみてとれるということは、子育てハイリスク群に対して周産期医療を組み込んだ支援が有効であると考えられる。

子どもを産む前から子ども虐待の可能性がみてとれる子育てハイリスク群の実態を明らかにするために、未受診妊産婦にかかわりのあった助産師に対して、生活者としての未受診妊産婦について聞き取り調査をおこなった。その結果、「周産期の言動が了解困難」な未受診妊産婦の存在が見出された。「周産期の言動が了解困難」な彼女たちを支援するには、彼女たちの言動を理解することが必須である。本研究の目的は、「了解困難」な未受診妊産婦の「周産期の言動」を、彼女たちの生きられた経験として理解することである。

2. 研究の視点および方法

助産師から聴取した聞き取り資料¹をもとにして筆者らが再構成した事例の検討をおこなう。そのさい、助産師や筆者らの理解の仕方ではなく、当事者である未受診妊産婦の理解の仕方に即して解釈する。なぜなら、同じ言動であっても、理解する人の立場や関心に応じて理解の仕方は異なるからである。

3. 倫理的配慮

本研究は、関西福祉大学社会福祉学部研究倫理審査委員会の承認を得、日本社会福祉学会の研究倫理指針に則っておこなったものである。具体的には、調査にあたって調査協力者に対して事前に「研究依頼書」を提示し、研究協力の意思確認をおこなった。調査の当日、調査者より「研究依頼書」の内容について説明をおこない、「研究協力同意文書」を交わした。発表にさいしては、個人や団体等が特定されないように、固有名詞はランダムにアルファベット表記とし、事例は類似する複数のものを組み合わせて筆者らが再構成した。

4. 研究結果

以下では、「周産期の言動が了解困難」な未受診妊産婦であるAさんが、妊婦健診を受けなかった理由として挙げた、「お金がなかった」という言葉に焦点をあてて考察する。

【事例：Aさん】

39歳、既婚、経産婦。夫と中学生の女儿(14歳)、男児(3歳)の4人家族である。出産にさいして妊婦健診を全く受けておらず、母子手帳も受け取っていなかった。14歳の女儿を出産するときは母子手帳を受け取り妊婦健診も受けていた。しかし、3歳の男児を出産するときは今回と同様に妊婦健診を受けていなかった。

Aさんは、人あたりがよく、助産師にねぎらいの言葉をかける等の配慮ができ、病院関係者から祝福されて退院した。しかし同時に、入院時に連絡先を偽って申告し、退院時には出産にかかわる費用が未払いであった。人あたりのよさや助産師に対する配慮は、自分は未払い者になるような要注意人物ではないとカモフラージュするための手段であると考えられる。しかし未払いのまま退院するのであれば、一刻も早く病院をあとにする方が、未払いの事実が露呈されにくいにもかかわらず、記念撮影等をおこなってから退院するという行動をとっている。このようなところにAさんの周産期の言動における了解困難なところを見出すことができる。加えて、退院後、医事課の職員の訪問には居留守を使うにもかかわらず、コンビニで助産師に出会ったときは、自分の側から声をかけるというのも了解困難な言動であるといえる。

Aさんに助産師が未受診の理由を尋ねると、妊婦健診を受診する「お金がなかった」というこたえが返ってきた。「お金がなかった」という言葉から、もしAさんが妊婦健診を受けに行けば、食費を切り詰めなければならない、あるいはまた、家賃が払えないというような状況がイメージされる。

ところがAさんの場合は、妊婦健診を受診することで衣食住に困るほど家計が逼迫していたわけではないようだ。妊婦健診にかかわる費用を支払っても食費に困ることもなければ家賃の支払いに困ることもないのだが、妊婦健診に費やすお金はなかったと推察されるのである。このことは、Aさんは未払いのまま退院してはいるものの、出産にかかわる費用を支払う余裕があったという助産師の証言からも言えることである。

以上から、未受診となる理由としての「お金がなかった」には、Aさんのように、たとえ生活に余裕があっても、妊婦健診の受診費用に費やす「お金がなかった」という場合があることが明らかになった²。

¹ 調査対象者は未受診妊産婦にかかわりのあった助産師の中から無作為に抽出された7名である。1回につき2時間程度、延べ8回の半構造化インタビューをおこなった。調査期間は2010年9月～11月である。本調査では21件の分娩事例が収集された。

² 未受診妊産婦が未受診となる理由としての「お金がなかった」には、他に、生活全般にわたって貧困状況である場合も確認されている。